



弥生の出雲王に出会える

季刊

第53号

(2024年4月)



出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

出雲市市制施行20周年記念  
出雲弥生の森まつり2024

4月28日(日)

オープニングイベント

出雲商業高校書道パフォーマンス

9時30分～10時



無料 X+(えくすと)ステージライブ

① 11時～11時30分

② 14時～14時30分



Vo.Gt 日高 慎二



Key サポート SASAGU

有料 缶バッジづくり 10時～15時

無料 出雲科学館がやってくる! 勾玉

せっけんをつくるう 10時～15時

無料 やすみちゃんと写真を撮ろう

無料 博物館探検隊 10時～16時

無料 やすみちゃんクイズ 13時～14時

無料 やすみちゃんクイズ 10時05分～11時05分

4月29日(月・祝)

オープニングイベント

三谷神社獅子舞保存会

子ども獅子舞 9時30分～10時



有料 古代体験フェスティバル

10時～15時

ミニ丁銀づくり

古代出雲歴史博物館

銅剣・銅鐸プラ板づくり

荒神谷博物館

拓本エコバッグづくり

八雲立つ風土記の丘

勾玉消しゴムづくり

出雲弥生の森博物館

無料 火起こし体験 10時～15時



無料 展示ガイドサービス

● 常設展館長ガイド 10時～11時

● 企画展 11時～12時

● ギャラリー展 13時～13時30分

● 速報展 14時～14時30分

無料 西谷墳墓群ガイドサービス 10時～15時

4月28日(日)・29日(月・祝)

無料 キャラクター探し 10時～15時

有料 屋台村・喫茶コーナー 10時～15時

※喫茶コーナーは28日のみ

5月3日(金・祝)～5日(日)

無料 キャラ探しスーパ-

5月6日(月・休)

有料 缶バッジ・勾玉づくり

無料 やすみちゃん折り紙づくり 10時～12時・13時～15時

5月3日(金・祝)～6日(月・休)

無料 「やすみちゃん」「みすよちゃん」と写真を撮ろう

日程が変わる場合があるよ  
最新情報はHPをみてね



★春季企画展

「科学の力で解き明かす

出雲の歴史」

開催中(5月20日(月))

出雲弥生の森博物館では開館以来、140の企画展やギャラリー展を開催し、出雲の歴史を紹介してきました。ほとんどが遺跡からの出土品を中心に展示したものです。土の中に埋もれていた出土品は、材質によって錆びたり、朽ちたりし、色や形が変わってしまったり、色がほとんどです。人間の眼だけでは、これらの使用時の姿や作り方を解明することはできません。そこで今回着目するのが「科学の眼」です。これまで当館でも人間の眼と科学の眼を使って、展示を行ってきました。ここでは、奈良県立橿原考古学研究所と協力して行った、重要文化財の上塩冶築山古墳(出雲市上塩冶町)出土品の科学調査成果について紹介します。



赤鞘の大刀の復元品と実物(右)



金銅冠の実物と復元品(右)

当古墳は、1400年前に築造された出雲平野を治めた豪族の墓です。ここから金銅冠が出土しました。冠は金色と緑色の部分があり、材質を調べるため、目に見えないX線を照射しました。その結果、主な成分は金と銅で、わずかに水銀を確認しました。冠の本体は銅板で、表面を金で覆った構造でした。緑色は銅の錆びです。この構造は、次の化学変化を使って作り出されています。固体の金と液体の水銀を混ぜると、銀

色の柔らかい合金ができます。これを銅の表面に薄く伸ばし、火にかざすと水銀が蒸発し、銅の表面が金色に変化します。金属の化学変化を利用して、金銅板を作り黄金の冠ができあがったのです。この他、「赤鞘の大刀」が出土しています。材質調査や顕微鏡による観察の結果、鞘には布が巻かれ、その上に赤色顔料(水銀朱)が塗られていました。そして、所々に金銅板の飾りが付きます。科学調査によって確認された「赤鞘の大刀」は珍しく、貴重な発見になりました。通常、鞘は腐食してなくなってしまいましたが、この大刀ではよく残っていました。これらの他、西谷3号墓の赤色顔料やガラス管玉、猪目洞窟遺跡の人骨などの科学調査の成果を展示しています。この機会に、科学の力が解き明かす出雲の歴史をご覧ください。(坂本 豊治)

★市民ギャラリー 展示作品募集中

博物館では、出雲市内で活動されているみなさまの成果を発表する場として、「市民ギャラリー」を設けています。博物館を利用して、みなさまの作品を展示してみませんか。

- 使用料金 無料
- 使用期間 原則15日間  
(休館日に火曜日に準備し、2週間後の休館日の火曜日に撤去)
- 展示期間 原則12日間  
(使用期間から、準備日及び休館日を除きます)
- 展示面積 おおむね6m×2m
- 貸出備品
  - ① 展示パネル板 6枚
  - ② 展示用机 6台
  - ③ 展示机用白布 6枚
  - ④ イーゼル 2台

※詳しくは、博物館までお気軽にご相談ください。

過去の市民ギャラリーの様子



小さな模型展示会



2号墳の東斜面から出土した  
ヒスイ勾玉(原寸大)

**★速報展**  
**「発掘！斐川の群集墳**  
**―結本谷古墳群の発掘調査速報―**  
**開催中！5月27日(月)**  
 結本谷古墳群(出雲市斐川町直江)は、仏経山から北へのびる丘陵上に築かれた、15基以上の古墳からなる古墳群です。出雲斐川イーター企業団地の造成事業に伴い、2022・23(令和4・5)年に1・2号墳を調査しました。  
 調査の結果、1・2号墳は墳丘規模10m前後の方墳であることがわかりました。どちらも埋葬施設は2基ずつ確認されましたが、棺の痕跡や副葬品は見つかっていません。なお、2号墳の東斜面の方からヒスイ勾玉や鉄斧が出土しており、これらは埋葬施設から流出した副葬品の可能性もあります。また、1号墳で採取した木炭



結本谷1号墳の全景(南東から撮影)

片の年代測定結果と、近隣の古墳群の築造時期がほぼ一致したことから、1・2号墳は古墳時代中期(後期前半(5世紀)〜6世紀中頃)に築かれたと推定されます。  
 結本谷古墳群をはじめとして、斐川町の丘陵地帯には古墳時代中期(5世紀)以降、狭い区域に密集して築かれた古墳群(群集墳)が多く分布します。これらの群集墳にはどのような人々が葬られたのでしょうか。今回の速報展では、結本谷古墳群の調査に加え、過去に行われた群集墳の調査成果もふまえて、その謎に迫ります。  
 (下江 裕貴)

**★古文書の森をゆく 18**  
**船で届く「甘さとしよっぱざ」**

現在では日常的に料理やお菓子作りに使用されている塩と砂糖。近世まで庶民にとって甘い物はゼいたく品であり、特別な日にしか食べられないご馳走でした。一方、塩は身近で生活に欠かせない物でした。

江戸時代の廻船業者が取り扱っていた品物の相場表や、船頭の手紙を見ると、「黒砂糖」「白砂糖」「三盆」「焚込」など様々な砂糖の品名が並んでおり、それぞれ品質や種類によって取引されていたことがわかります。例えば「三盆」は今でいう「和三盆」のことで、和菓子作りに使われるきめの細かい砂糖で、現在でも高級品です。

暖かい地域で育つサトウキビから作られた黒砂糖は琉球(沖縄)から薩摩(鹿児島)を経由して輸入され、大坂市場に集められた後、売買されて全国へ流通していました。やがて、江戸中頃から幕府の奨励により日本国内の温暖な地域でのサトウキビ栽培が始まると、讃岐(香川県)と阿波(徳島県)に代表される各地域で白砂糖の生産が盛んになっていきます。

一方、塩は日々の食事から食材の長期保存、或いは神事にも使われるなど幅広い用途が存在しました。塩の名産地は播磨(兵庫県)の赤穂に代表される瀬戸内海沿岸で多く作られ「十州塩」と呼ばれました。瀬戸内海沿岸で作られた塩は北前船によって北国へ運ばれて売られており、実際に北陸で塩を売った記録が多伎町に残されています。また長門(山口県)へ塩の買付けに出た廻船が遭難し、長門の人々に助けられた記録も大社町鷲浦に残っています。

塩と砂糖は今も昔も変わらず、生活に不可欠なもの。料理をおいしくするだけでなく、文化や流通の流れとその変化も教えてくれるものなのです。  
 (荒川 英里)



塩作りの様子『東海道五十三次』葛飾北斎  
 (国立国会図書館デジタルコレクションより)

★展示のご案内

▼春季企画展

開催中〜5月20日(月)

「科学の力で解き明かす出雲の歴史」

●ギャラリートーク

4月13日(土)、5月19日(日)

いずれも10時〜

▼ギャラリー展

開催中〜6月10日(月)

「糸をつむぐ」

●ギャラリートーク

5月11日(土)、6月8日(土)

いずれも10時〜

▼速報展

好評開催中〜5月27日(月)

「発掘!斐川の群集墳」

「結本谷古墳群の発掘調査速報」

★講座・講演会のご案内

▼春季企画展関連講演会

①「JTBでわかった

上塩治築山古墳の出土品

4月14日(日)14時〜16時30分

●講師 奥山 誠義 氏

河崎 衣美 氏

中尾 真梨子 氏

(奈良県立橿原考古学研究所研究員)

②5月11日(土)14時〜16時

●講師 北井 利幸 氏

小倉 頌子 氏

(奈良県立橿原考古学研究所研究員)

●受講料 無料

▼職員リレー講座

①6月15日(土)14時〜16時

「神火山のふもとにて

発掘調査でわかった古代の斐川」

●講師 下江 裕貴

②6月29日(土)14時〜16時

「大社駅の時代」

●講師 吾郷 誠

③7月20日(土)14時〜16時

「鳥居を掘るー日御碕神社

鳥居保存修理事業から」

●講師 黒田 祐介

●受講料 各300円

●オンライン配信

氏名・電話番号を記載のうえ、

メールで申込。受講料無料

講座・講演会の申込について

定員80名

事前申込必須(電話・メール・FAX)

●申込受付時間 9〜17時

●必須事項 氏名・電話番号

★イベントのご案内

▼出雲弥生の森まつり2024

4月28日(日)・29日(月・祝)

5月3日(金・祝)〜6日(月・休)



★館長古来夢

今尾恵介さん著『地図バカ』に

鉄道の駅名変化を取り上げた一節

がある。紀和鉄道(現JR和歌山線)

の名倉駅は「高野山の入口」をア

ピールするため高野口駅に改称

し、さらには名倉村が町政施行し

た際に駅名をとって高野口町と

なった事例のほか、駅名の有為変

転がおもしろく語られている。

自宅に近い東松江駅、前は馬湯

駅だった。馬の形をした潟湖が地

名起源らしく、八雲立つ風土記の

丘にある奈良時代の意宇平野模型

にその姿が再現されている。

また、西出雲駅はかつて知井宮

駅だった。『出雲国風土記』神門郡

の知乃社がその後知宮として今

の智伊神社と社名を変えつつもそ

れにちなむ地域名として存在する。

企画展「大社駅の百年」は終わっ

てしまったが、1990年の大社

線廃線は思わぬ駅名変更をもたら

した。「大社」を冠した駅名が出

雲から消えたことを憂慮して、山

陰本線神西駅の名称が出雲大社口

と改められた。93年のことだった。

しかし、この駅から出雲大社への

定期バスは運航されず、最寄り駅

と信じた参拝客からクレームが殺

到。紆余曲折のすえ99年に現在の

出雲神西駅に駅名変更となった。

観光振興を目論んだ出雲大社口

駅への変更は当時の出雲市長・岩

國哲人さんの発案だったらしい。

「行政は最大のサービス産業」「小

さな役所、大きなサービス」とい

う持論のもと斬新な施策を打ち出

し、出雲市はトヨタ・ソニーと並

ぶ優良企業として表彰されるまで

になった。その岩國さんが昨年10

月アメリカで亡くなられた。当館

の階段脇の写真には西谷3号墓の

調査説明会に聞き入る岩國さんの

姿が写る。ご著書の絵本「おばあ

さんの新聞」もお読みいただける。

ぜひご来館いただき、岩國さんを

偲んでいただきたい。合掌。

(花谷 浩)

(発行) 出雲弥生の森博物館

2024年4月

〒693-0011

島根県出雲市大津町2760

(TEL) 0853-25-1841

(FAX) 0853-21-6617

(E-mail) yayoi@city.izumo.lg.jp

http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori

●入館料/無料

●開館時間/9:00~17:00

(入館は16:30まで)

●休館日/火曜日

(祝日の場合は翌平日)

年末年始

